北アルプス・八方尾根ガラガラ沢スキーツアー

２００８年4月１３日（日）
メンバー：Take、T（記）
天気：曇り

道の駅「白馬」にて６：００起床、八方ゴンドラ８：００乗車、さらにリフト２本乗り継ぎ、八方池山荘９：３０出発。早朝の快適そうなバーンを次々と滑り下ってゆくスキーヤーを尻目に、後立山連山を眺めながら、シール登行。山スキーヤーや下山してくる登山者もちらほらいる。前方には、不帰の険の偉容も見えてくる。石神井ケルン～第二ケルン～八方ケルンにかけてがガラガラ沢の源頭となる。１本奥の無名沢にも数本のシュプールがありそそられる。ガラガラ沢にも、昨日のだろうか、数本のシュプールがある。単独のボーダーが滑り込んでゆくのが下方に見えるだけで、我々の貸切り状態だ。

八方ケルン少し上のピークより滑走開始。上部大斜面は快適そのもののザラメで、写真を撮りあいながら思い思いに滑り下る。数本の岳樺のあたりから傾斜が徐々に急になり、

やがて眼下に唐松沢本流も見えてくる。しかし、徐々にシャブ雪になり滑りづらい。最下部は、土砂混じりのデブリを避けながら、本流へ。本流を右岸沿いに滑り、２つ目くらいの堰堤の上で対岸の林道へと渡渉するが、靴に水が少し入ってしまった。堰堤の下にも渡渉点があり、２人のスキーヤーが対岸の急沢から滑り降りてきたところだった。ガラガラ沢の１本下流の沢だと思われる。林道は途中からすっかり雪が消え、ふきのとうを摘みながらのんびり二俣まで。タクシー（￥１６００）でゴンドラ乗り場ＰＡへ戻る。荷物を整理していると、ポツリポツリと降ってきた。八方温泉に漬かってから帰路につく。

次回は、もう少し早い時期に訪れて、青空のもと、唐松沢や無名沢を滑りたいものだと思った。